

- 問1 飛鳥時代、聖徳太子（厩戸王）が推古天皇の摂政として政治を行っていた時期に定められた「冠位十二階」の制度について、その目的を説明したものと最も適切なものはどれですか。（2019年 長崎県公立入試 類似）
1. 家柄にとらわれず、能力や功績のある人物を役人に登用するため
  2. 有力な豪族に対し、代々特定の役職に就く特権を認めるため
  3. 戸籍を作成して人々に土地を割り当て、税の徴収を確実にするため
  4. 仏教の教えを政治の基本とし、国民全体の道徳を高めるため
- 問2 7世紀、朝鮮半島では唐と新羅が結んで百済や高句麗を滅ぼしました。日本（倭）は百済の復興を支援するために大軍を送りましたが、663年に朝鮮半島西岸の白村江で大敗しました。この「白村江の戦い」において、日本が戦った相手の組み合わせとして正しいものはどれか、選びなさい。（2025年 茨城公立入試 類似）
1. 唐・新羅の連合軍
  2. 唐・高句麗の連合軍
  3. 新羅・高句麗の連合軍
  4. 百済・新羅の連合軍
- 問3 律令国家の形成過程において「公地公民」という原則が示された目的として、当時の社会状況を踏まえた説明として最も適切なものはどれですか。（2023年 島根公立入試 類似）
1. 豪族による土地や人民の私有を禁じ、朝廷が全国の土地と人民を直接把握することで、徴税や統治の基盤を固めるため
  2. 農民の開墾意欲を高めるために、新しく耕した土地を永久にその人の私有地として認めるため
  3. 地方の豪族に一定の土地の支配権を残し、朝廷に協力的な姿勢をとらせることで内乱を防ぐため
  4. 仏教の教えに基づき、すべての土地は神仏のものであるとして、寺院が土地を管理する体制を作るため
- 問4 飛鳥時代から奈良時代へと至る時期に起きた次の4つの出来事について、時期の古いものから順に正しく並んでいるものはどれか。（2022年 千葉県公立入試 類似）
1. 聖徳太子による法隆寺の建立 → 中大兄皇子らによる蘇我氏の打倒 → 白村江の戦いでの敗北 → 壬申の乱
  2. 中大兄皇子らによる蘇我氏の打倒 → 聖徳太子による法隆寺の建立 → 壬申の乱 → 白村江の戦いでの敗北
  3. 聖徳太子による法隆寺の建立 → 白村江の戦いでの敗北 → 壬申の乱 → 中大兄皇子らによる蘇我氏の打倒
  4. 白村江の戦いでの敗北 → 壬申の乱 → 聖徳太子による法隆寺の建立 → 聖武天皇による国分寺建立の詔
- 問5 「白村江の戦い」「壬申の乱」「藤原京への遷都」の3つの出来事を、時期の古い順に正しく並べたものはどれですか。（2020年 奈良公立入試 類似）
1. 白村江の戦い → 壬申の乱 → 藤原京への遷都
  2. 壬申の乱 → 白村江の戦い → 藤原京への遷都
  3. 藤原京への遷都 → 白村江の戦い → 壬申の乱
  4. 白村江の戦い → 藤原京への遷都 → 壬申の乱
- 問6 663年の白村江の戦いにおいて、倭（日本）は百済の復興を支援しましたが、唐・新羅の連合軍に大敗を喫しました。この敗北を受け、大宰府周辺の守りを固めるために佐賀県に築かれた「基肆城（きいじょう）」などの山城には、どのような背景や目的がありましたか。（2019年 佐賀公立入試 類似）
1. 唐や新羅による日本本土への侵攻という国家的危機に備え、九州の政治・外交の拠点である大宰府を防衛する目的。
  2. 租・庸・調などの重い税負担に苦しんだ農民たちの反乱を鎮圧し、大宰府の役人が地方を監視する拠点とする目的。
  3. 朝鮮半島への再出兵を計画するための軍事訓練施設として、大陸に近い九州北部の山岳地帯に兵力を集結させる目的。
  4. 仏教による国家の鎮護を目的として、大宰府を望む山の上に広大な寺院や仏塔を建設し、外敵を退散させる祈禱を行う目的。
- 問7 聖徳太子（厩戸皇子）が「十七条の憲法」を制定した背景には、当時の政治的な課題を解決する狙いがありました。この法令を通じて太子が実現しようとした「国家のあり方」として、最もふさわしい説明はどれですか。（2024年 静岡公立入試 類似）
1. 有力な豪族が個別に権力を持つのではなく、天皇の下に役人が結集する中央集権的な国家
  2. 地方の農民に土地の私有権を認め、それぞれの生活を安定させることで成り立つ地方分権的な国家
  3. 海外の十字軍派遣の動きに合わせ、キリスト教を国教として受け入れる宗教的な国家
  4. 国民の選挙によって選ばれた代表者が、議会で法律を決定する立憲民主主義的な国家
- 問8 日本の歴史における主な出来事を時系列順に整理したとき、7世紀中頃に中大兄皇子らが中心となって進めた、天皇中心の国づくりを目指す一連の政治改革にあたるものはどれか。（2022年 青森県公立入試 類似）
1. 大化の改新
  2. 聖徳太子の政治
  3. 聖武天皇の仏教政策
  4. 桓武天皇の平安京遷都
- 問9 聖徳太子が小野妹子を中国の隋に派遣した際、隋の皇帝に宛てた国書の中に「日出づるところの天子、書を日没するところの天子に致す、恙なきや」という一節がありました。このような表現を用いて使節を派遣した聖徳太子の意図として、最も適切な説明を選んでください。（2022年 和歌山公立入試 類似）
1. 隋の皇帝の臣下として認めてもらい、朝鮮半島での軍事的優位を確保するため
  2. 当時の中国の圧倒的な武力を背景に、日本の統治権を委ねる意思を示すため
  3. 中国を上位とする従来の形式ではなく、対等な立場での国交を樹立しようとするため
  4. 隋で流行していた新しい仏教の経典を、日本へ無償で提供してもらうため
- 問10 飛鳥時代、聖徳太子が小野妹子を中国の隋に派遣した歴史的背景と目的の説明として、最も適切なものはどれですか。（2021年 熊本県公立入試 類似）
1. 大陸の進んだ制度や仏教文化を直接取り入れ、天皇を中心とした政治制度を整えるため。
  2. 白村江の戦いでの敗北を受けて、唐や新羅の侵攻に備えた外交交渉を行うため。
  3. 菅原道真の提言に基づき、形式的な外交を廃止して国内の政治改革に専念するため。
  4. 阿倍仲麻呂を隋の皇帝に紹介し、日本の律令制度が完成したことを報告するため。
- 問11 7世紀後半、天智天皇が亡くなった後に発生した「壬申の乱」の直接的な原因として、最も適切な説明はどれですか。（2025年 愛知公立入試 類似）
1. 天皇の死後、その皇位継承をめぐる親族や有力な一族の間で生じた対立
  2. 地方で武士団が組織できるほどに成長し、土地の支配権をめぐる朝廷に反旗を翻したこと
  3. 重い税や労役を課しながらも人々を救おうとしない役人の政治に対し、農民が結集して抵抗したこと
  4. 大陸との国交を閉ざそうとする勢力と、積極的に文化を取り入れようとする勢力の外交方針の対立
- 問12 7世紀の飛鳥時代、日本（倭）は百済の復興を支援するために朝鮮半島へ大軍を派遣しましたが、白村江の戦いにおいてある2つの国の連合軍に大敗しました。この時、日本が対戦した連合軍の組み合わせとして正しいものを次から選びなさい。（2018年 富山県公立入試 類似）
1. 唐と新羅
  2. 隋と高句麗
  3. 元と高麗
  4. 宋と新羅
- 問13 7世紀後半、朝鮮半島で滅亡した百済を復興させるために日本が送った軍が、唐と新羅の連合軍に大敗した戦いを何とよぶか、名称を答えなさい。（2021年 三重公立入試 類似）
1. 白村江の戦い
  2. 壇ノ浦の戦い
  3. 桶狭間の戦い
  4. 長篠の戦い

## 答え合わせ・解説

問1	答え 1 家柄にとらわれず、能力や功績のある人物を役人に登用するため	それまでの日本の政治では、特定の氏族が代々決まった役職を引き継ぐ「氏姓制度」が中心でしたが、聖徳太子は個人の実力を重視するこの制度を導入しました。これにより、天皇に従順で有能な人材を役人として集め、天皇中心の国づくりを進める狙いがありました。選択肢にある土地の割り当ては、後の「班田収授法」の内容です。
問2	答え 1 唐・新羅の連合軍	660年に唐と新羅の連合軍によって百済が滅ぼされた際、日本は百済の遺民から救援を求められました。中大兄皇子（後の天智天皇）はこれに応じ、朝鮮半島へ大軍を派遣しましたが、白村江（現在の韓国の錦江河口付近）において唐・新羅の圧倒的な水軍の前に敗北を喫しました。これにより百済復興の望みは絶たれることとなりました。
問3	答え 1 豪族による土地や人民の私有を禁じ、朝廷が全国の土地と人民を直接把握することで、徴税や統治の基盤を固めるため	公地公民は、天皇を中心とした中央集権体制を確立するために導入された仕組みです。特定の豪族が土地や人民を私物化することを防ぎ、朝廷が全国の戸籍を作成して人民に土地を分け与える（班田収授法）ことで、租・庸・調などの税を安定的に徴収し、国家運営の財源を確保することを狙いとしていました。
問4	答え 1 聖徳太子による法隆寺の建立 → 中大兄皇子らによる蘇我氏の打倒 → 白村江の戦いで敗北 → 壬申の乱	まず7世紀初頭、聖徳太子によって法隆寺が建立されました。その後、645年に中大兄皇子らが蘇我氏を倒して大化の改新が始まり、663年に朝鮮半島での白村江の戦いに敗れました。天智天皇（中大兄皇子）の死後、672年に皇位継承をめぐる起きた内乱が壬申の乱です。聖武天皇による国分寺建立の詔は、さらに後の奈良時代の出来事です。当時の日本が対外的な敗戦や内部の争いを経て、天皇中心の律令国家を形成していった流れを理解することが重要です。
問5	答え 1 白村江の戦い → 壬申の乱 → 藤原京への遷都	まず663年に、百済の復興を助けるために朝鮮半島へ出兵した「白村江の戦い」が起きました。その約9年後の672年に、天智天皇の後継者を巡る内乱である「壬申の乱」が発生しました。この乱に勝利した天武天皇の意志を引き継ぎ、持統天皇が694年に中国の都にならった大規模な「藤原京」へと遷都しました。藤原京への遷都は、白村江の戦いや壬申の乱よりも後の出来事です。
問6	答え 1 唐や新羅による日本本土への侵攻という国家的危機に備え、九州の政治・外交の拠点である大宰府を防衛する目的。	白村江の戦いで唐・新羅連合軍に敗れた倭（日本）は、強大な勢力が海を越えて攻めてくることを非常に恐れました。そのため、天智天皇（中大兄皇子）は九州北部の防衛を急ぎ、大宰府の北側に水城（みずき）という堤防を築き、周辺の山々には大野城や基肄城（きいじょう）といった朝鮮式山城を築かせました。これは、対外的な緊張感が高まったことで、国内の政治体制をより一層中央集権化（律令国家への移行）させる大きな動機の一つとなりました。
問7	答え 1 有力な豪族が個別に権力を持つのではなく、天皇の下に役人が結集する中央集権的な国家	当時の日本は有力な豪族が独自の力を持ち、勢力争いを繰り返していました。聖徳太子はこうした状況を打破し、中国（隋など）のような組織立った国家を作るため、役人の地位を明確にする冠位十二階と、その倫理規定である十七条の憲法をセットで運用しました。これにより、豪族たちを「天皇に仕える役人」へと再編し、国家としての統一感を高めようとしたのです。
問8	答え 1 大化の改新	645年に中大兄皇子（後の天智天皇）と中臣鎌足らが蘇我氏を倒した乙巳の変に始まり、唐の制度を取り入れて進められた一連の改革を指します。豪族が土地や人民を私有するそれまでの体制を改め、天皇を中心とする中央集権国家の建設を目指しました。
問9	答え 3 中国を上位とする従来の形式ではなく、対等な立場での国交を樹立しようとするため	それまでの日本の外交は、中国の皇帝から称号を授かることで地位を認めてもらう「朝貢」の形式が一般的でした。しかし、聖徳太子は自らを「日出づるところの天子」と称し、隋の皇帝と対等の立場で交流しようとして試みました。これには、日本の独立性を高めつつ、高度な技術や制度を吸収しようという目的がありました。
問10	答え 1 大陸の進んだ制度や仏教文化を直接取り入れ、天皇を中心とした政治制度を整えるため。	聖徳太子は冠位十二階や十七条の憲法を制定し、豪族中心の政治から天皇中心の政治への転換を図っていました。遣隋使の派遣は、その改革のモデルとなる中国の高度な政治制度や、国家の精神的支柱としての仏教を学ぶための重要な外交手段でした。選択肢にある菅原道真は遣唐使の停止を提言した人物であり、阿倍仲麻呂は遣唐使として渡った人物なので、時代や背景が異なります。
問11	答え 1 天皇の死後、その皇位継承をめぐる親族や有力な一族の間で生じた対立	天智天皇の死後、その弟である大海人皇子と、天皇の子である大友皇子が、次の皇位をめぐる争ったことがこの乱の本質です。当時はまだ皇位継承のルールが明確に確立されておらず、一族間で深刻な対立を招く背景がありました。この乱に勝利した大海人皇子は天武天皇として即位し、天皇中心の中央集権体制をさらに強化していくことになりました。他の選択肢にある武士の台頭や農民一揆などは、より後世の時代に見られる特徴です。
問12	答え 1 唐と新羅	663年、日本は同盟関係にあった百済を助けるために水軍を派遣しましたが、白村江（はくすきのえ）において、当時朝鮮半島で勢力を拡大していた新羅と、それを支援する唐の連合軍に敗北しました。この敗戦により、日本は朝鮮半島における拠点を完全に失うこととなりました。隋は白村江の戦いの以前に滅亡しており、元や高麗は中世（鎌倉時代）の勢力です。
問13	答え 1 白村江の戦い	663年に朝鮮半島の白村江で行われたこの戦いは、中大兄皇子（のちの天智天皇）の時代に起こりました。日本は伝統的に友好関係にあった百済を支援しましたが、唐と新羅の強力な連合軍の前に大敗を喫しました。これにより、日本は朝鮮半島における影響力を失うこととなりました。